

# しいのき



《企画展：寺小屋から学校へ：7月10日～9月5日：休館日＝月曜日・第三日曜日》

## 手習い教育

名誉館長 三 隅 治 雄

公立学校が生まれる明治初年まで庶民の教育機関として親しまれた寺子屋の、学習の第一は文字の手習いでした。師匠がみずから筆を取ったお手本を前に、仮名・数字を繰り返し書き、次いで姓名・村名・郡名・国名などを書きおぼえていきます。地名の手本には「村名尽」「国尽」、さらに「江戸方角」「東海道往来」などをもちいましたが、これらによって子どもたちは、単に文字を知るだけでなく、地理や土地の歴史・文化をまなぶこともできました。そしてさらに「庭訓往来」「消息往来」によって手紙文の用語、「百姓往来」「諸職往来」「商賣往来」などを手本に職業もろもろについての文字と知識を習得しました。何ごととも書いて知識するのが寺子屋教育の基本方針で、字の上達をはかるばかりでなく、多くの手本を通して社会生活に必要な知識・教養をまなび取ったのです。くらべて現代は活字文化の氾濫で、文字は眼で追い、書くのはワープロにまかせるという状態。一見便利そうでいながら、頭に詰めたはずの知識がすぐにけしとび、文字を書けば誤字だらけ。よって寺子屋教育を振り返る必要があるようです。

# 文化財よもやま話

## 境の神々

日本は主として農業を基盤とした文化を形成し、人々はムラという生活空間の中で、家を単位として日々くらししてきました。

私たちは正月には初詣をし、受験の機会には合格祈願のお守りを受けてくるなど、折にふれ多種多様な神仏に祈っています。目まぐるしく私たちを取り巻く社会や環境は変化し、それに伴い祈りの内容も様々になってきました。しかし、地域（ムラ）の安全や家の繁栄、家族の無病息災などは時代に左右されない幸せと言えるでしょう。

ところで、区内の上鷺宮には「中村境の地蔵」が、白鷺には「交通厄除地蔵」がありますが、これらは共に村と村の境界にあたる場所に立っているのです。また道祖神も辻や村境でよく見られます。これらの神仏は村々に邪気悪霊が入らぬよう置かれたものです。境界は自分たちの生活空間と外の世界を分ける場所であり、村の平穏無事を祈るため神仏が置かれたり、いろいろな行事が行われた場所でした。



生活を守る境界は、村境だけではありません。家に目を向けてみましょう。様々な神が祀られたり魔除けがなされたりしています。軒は家と外の境界です。区内の白鷺では5月5日の端午の節句に蓬と菖蒲を軒に挿す風習がありました。これは全国的に見られますが、それらの強い香りで邪気悪霊を払うという地域があります。また玄関などの家の入口では、節分に柗と鯛を挿し魔除けとしたり、寺社から受けたお札を貼ったりしています。家の中に入ると土間にはかまどの神が、座敷には神棚が置かれ、氏神や檀那寺のお札以外にも講や個人の旅で受けたお札が置かれています。人々の生活は神々に幾重にも守られていたのです。

# 大地に眠る歴史

## 台所物語5（ごはんの炊き方）

カマドが使われていた時期のなかで5~8世紀前半のお米の炊き方は、以前のような台付甕だいつきかめや現代の電気釜で、水に浸して煮るのとは違って、煮立てたお湯の蒸気で、蒸したものでした。これはカマドの中に設置した土器かめ（甕）を出し入れすると、カマド自体がこわれてしまうおそれがあるからと考えられます。そのため、カマドにはいつも同じ土器を設置して、そこで湯を煮立て、その上に甕という底に穴のあいた土器をのせて、麻袋にといだ米を入れて、甕かめのなかで蒸したのです。この炊き方は今の赤飯と同じですので、さぞかしおいしい仕上がりであったと思います。さて、このような方法ですと、湯をたくさん煮立て、長持ちさせる必要があります。そのため、カマドの中に入れる甕かめは水がたっぷり入る、縦に長い形になったのです。



ところで、カマドは、ふだんの食事のため以外にも、携帯食の製造という役割を持っていたとも考えられています。ちょうど、このころは、日本各地に豪族が成長し、近畿地方の大王おのおのを中心に国のしくみが整えられはじめた時代です。埼玉県稲荷山古墳鉄剣に書かれているとおり、地方の豪族は近畿地方におもむき、大王の近くに仕えたりしていました。（つづく）

# 古文書つづり

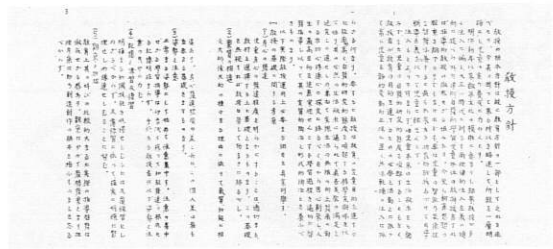
## 昭和初期の教育方法

日本の歴史の中で教育といわれると、私達は、江戸時代の寺小屋教育を思い出します。その後、明治時代から現在まで先生が生徒に教える方法は、どんどん変わっていきます。今では、パソコンやスライドなどを利用した教育が行われている例もよく聞かれます。「先生が生徒に対して如何にして教えるか」は、永遠の課題なのかも知れません。

右の史料は、昭和2年頃の野方東尋常小学校（現在の江古田小学校）で作成された、「教授方針」です。この「教授方針」は、各学校長が教師に対して「先生が生徒に如何に教えるべきか」という点を書いたもので、現在の教育指導案の様なものといえるでしょう。

この「教授方針」で注目できる点は、西欧的な先生が生徒に対して一方的に教える方法を、「他律的注入主義の傾向」と批判し、今後は児童の知能あるいは至徳性を啓発滋養する方法＝「自学轉

### ▼昭和初年頃に作成されたとする「教授方針」



導主義」にすべきという主旨で書かれている点です。

内容は、(1)教授としての取組方について、(2)教える際の学習教材について、(3)実際の学習指導について、(4)学習環境について、など主に四つの点を中心に書いています。中でも「家庭の宿題」の項目では、「宿題多きに過ぐるときは種々の弊害を醸しに至るべし・・・自発的に研究せしむる様不斷の注意指導を怠らざること肝要なり」と、宿題よりも、自発的な勉強の必要性を説いています。

先生が生徒に対し一方的に「教える教育」から、生徒に「考えさせる教育」への変化がこの時期見られたのです。

## 中野往來

### 感想ノートより

- ▲博多も随分名所が多く自慢したい気持ちですがここ中野にもこんな色々と目を見張らすような所があるとは知りませんでした。これを機に歴史を勉強しようと思います。(福岡の人)
- ▲休憩室の窓から山崎宅の庭を眺め印象に残りました。しいの木の見事なもの感嘆しました。いい気分です。(広島の人)
- ▲娘の案内で見にきました。立派な館なのに人がすくなく寂しかったが、私はゆっくり見ることができ満足です。(小樽の人)
- ▲新青梅街道の満開の桜にさそわれて、哲学堂からそぞろ歩き、資料館を見学させて頂きました。中野の歴史の一端を勉強しました。(栃木の人)
- ▲アメリカからきて、この近所にホームステイしています。はじめて資料館にきて、とても面白かったです。(アメリカの人)

## 中野昔話

### イワシこい

イワシ屋が、「イワシこい」って言うのと、その後から、「ふるい、ふるい」ってその、ふるい屋さん、そのふるいの商売の人が行くと、けんかになっちゃうわけですね。

そしたら、その後で、ふるかね屋さんというね、金の古いのや何か買い集める商売の人が、「かまわないから売ってみろ」って言って、イワシ屋が先、「イワシこい」って言うのと、「ふるい、ふるい」って言うのと、その後から、「ふるかね、ふるかね」って言って、三人並んで歩いたなんてことを、聞きましたよね。いちいち説明して。

おばあさん(母)から。

(鷺宮 女 明治38年生)

『中野の昔話・伝説・世間話』より



# 事業報告

## 各種事業経過

1993年4月～6月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「寄贈資料展－くらしの道具・うつりゆく時代－」	4/20～5/9
	「あそび絵展」	5/25～6/19
史跡めぐり	「沼袋コース」 講師 竹下睿騏氏（中野区文化財調査員）	4/25
体験学習	「拓本教室」 講師 比田井克仁（当資料館学芸員）	6/26・27
文化財調査	鷺宮地域民俗調査	4/1～5/29



▲アンソニーについて説明する田中明氏

## 寄贈資料一覧

1993年1月～3月  
敬称略・受入順

資料名	点数	氏名
習字箱	1式	立石 昌
昭和32年頃桃園小の記録	1	武山 正雄
読方学習帳・筆箱他	21	水上 郁子
雑誌「旅」	1	森崎 次郎
押絵雛	1式	近藤米利子
亀甲型朱塗置盤	1	藤田 順子
五月人形	1	酒巻 信子
のこぎり	6	宮沢 誠一
都新聞	122	山崎 清司
文房具	1式	山崎 清司
帯の芯	1	林 千代子
日本人形・観光土産	39	酒井美意子
内裏雛	2組	磯野 和子

◎貴重な資料をありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

### \* 人事異動 \*

退職者 3月31日付主任専門研究員・角田茂  
3月31日付専門研究員・金野啓史  
新任者 4月1日付専門研究員・落合功  
4月1日付専門研究員・吉田純子

++++ NEWS +++++

\* 平和展のお知らせ  
太平洋戦争と中野区民のくらしのテーマで平和展が開催されます。戦中戦後の区民のくらしを写真と資料で綴ります。  
場所：平和資料展示室（平和の森公園内）  
期間：7月3日(土)～10月28日(木)

\* 郷土学習相談室を開設  
小中学生を対象に、中野の歴史についてのご質問にお答え致します。8月24～27日の10～12時、1～3時迄です。（9時30分から受付）



▲史跡めぐり「沼袋コース」巡行風景

## 入館状況

1993年3月～5月（92日間）

（人）

一 般	社教団体	学校教育	合 計
12,455	189	962	13,606

発行年月日 1993年7月1日

山崎記念  
編集・発行  **中野区立歴史民俗資料館**  
〒165 東京都中野区江古田4-3-4  
☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119  
(印刷物登録番号 5中教社第4号)